



県内約400校中、男女ともトップ16で卓球部の夏終わる。

7月21日（土）、22日（日）に中体連筑後地区卓球大会が開催され、見事男女とも団体優勝を成し遂げました。男子は昨年、筑後地区3連覇を逃したことの雪辱を果たし、女子は創部3年目で快挙を果たしました。

団体戦はシングル戦4試合とダブルス戦1試合で対戦し、そのうち3勝しないと勝ち上がりません。相手との組み合わせによっては、普段勝率が低い選手の勝利がチームを救うこともあります。僅差の試合でも結果を残せたのは、やはり日頃の練習の裏付けがあってこそだと思います。個人では平島麻椰さんが準優勝で、本校個人として唯一県大会に駒を進めました。

県大会は、7月31日（火）に行われました。残念ながら男女とも二回戦で敗れ、平島さんも個人戦で勝利を得ることはできませんでしたが、すべての部員が県大会までの道のりを見届け、その姿を心に焼き付けたことが、本校卓球部の新たな文化の礎になっていくことと思います。



健闘を称えます！



本校3年生の山田杏奈さんが、「中体連筑後地区水泳大会100m自由形」と「中体連陸上競技福岡県大会女子砲丸」に出場しました。入賞はなりませんが、持てる力を一杯発揮しました。

立花中の代表として！



本年度、韓国の「巨済市との文化交流事業」に3年の松崎成美さんが、広島での「平和祈念式典」に2年の松永桜子さんが参加しました。その成果等は後日、八女市教育の日等で報告される予定です。

鬼塚先生のライフワーク

生徒数わずか100名前後の本校ですが、卓球部（男子）はここ7年で筑後地区4回優勝、3回準優勝しています。筑後地区大会の準決勝で、相手チームの保護者が「立花中か、こりゃ勝てんばい」と話しているのを聞いて、強豪校としての認知度が高いなと感じました。

失礼ながら決して運動エリートとはいえない卓球部員がこれほどまでに成績を残せる一番の要因は鬼塚先生の指導力だと思います。たまに遠方の卓球指導者と学校メールでデータのやりとりをされますが、その練習計画の緻密なことそれこそ「ハンパない」です。鬼塚先生の妥協を許さない姿勢と質の高い練習が練習量と重ね合わされて卓球部員の実力となっていると思います。



その姿勢は社会科の授業にも貫かれていて、定期考査だけでなく、実力テストの生徒の解答をコピーして、どの問題でつまづいているのか、どのように説明したらわかりやすくなるか整理して授業に向かわれます。そして、点数がとれるまで繰り返し指導されます。

もう還暦を迎えて2年になり、時に身体の不調があちこちで生じているようですが、「子どものためになることは妥協しない」鬼塚先生の信念が、社会科や部活動で具体化され、それがライフワークになって逆に鬼塚先生の支えにもなっているのかなと思います。

充実した補充学習を行うことができました！



7月23日（月）～27日（金）〔3年生は31日（火）までの7日間〕まで補充学習を行いました。立花中校区では、小中連携の一環として、小学校の先生たちが補充学習に参加します。

多くの先生が積極的に関わっていただいたおかげで、特に3年生では生徒一人に一人の先生がついて充実した学習を行うことができました。小学校の先生方に感謝するとともに、今後も「一人ひとりの学力保証に努める」ためのきめ細かな取組を、立花小中学校で実践していきたいと思っています。

